

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福島市こども発達支援センター			
○保護者評価実施期間	R8年1月15日		～	R8年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	R8年1月15日		～	R8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月6日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小児科医、理学療法士、保育士、保健師等が配置され、専門性を活かした支援ができる。お子さんだけでなく家族全体を視野に入れた支援を考えることができる。	定期的にカンファレンスの時間を設け、支援内容について検討する時間を設けている。	外部の研修にも積極的に参加しそれぞれのスキルアップを図る。
2	全職員がお子さんや保護者の意思を尊重し、就学以降の生活も視野に入れた支援を行えるよう話し合いを行い実践している。	職員間で意見を出しやすい雰囲気になるよう、意見を否定せず様々な角度から考えるよう取り組んでいる。 毎朝ミーティングの際に、連絡の時間を設け細やかなことでも共有を図っている。	他機関からの支援も受けているお子さんの場合、関係機関との情報共有を図りよりよい支援につなげていく。
3	行政機関として相談の入口の部分から対応できる。また、保育所等訪問支援や居宅訪問型支援も行い、通所の場面だけでなく、家庭や集団生活も含めた支援を考えることができる。	職員自身も様々な場面での経験を活かし、活動を振り返りながらより良い支援をめざしている。	支援の記録やカンファレンス等を通し、今後も支援方法の振り返りの時間を大切にする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援センター、また行政機関として地域の事業所との連携及び支援を行う役割があり、関係機関との顔の見える関係づくりを主な目的に学校見学会・交流会等を開催している。効果的な内容となるよう事業を見直しながら取り組んでいく。	取組始めたばかりであるため、課題把握、実施内容等難しさがある。	まずは現在の事業を継続し、より課題にあった内容となるよう取り組んでいく。また、個別支援等の様々な機会を見つけて事業所との連携を強化していく。
2	限られた人員であるため、支援できる件数に限りがある。		支援を必要とするお子さんに適切な支援が行えるよう事業所間の連携等をすすめる。